

中国の女性自営業者の参入メカニズムの研究

—家族、ジェンダー、ワークライフバランスの視点から—

ZHANG Yan

中国では 1978 年の改革開放をきっかけに私有経済が承認されるようになり、自営業率が上昇しつつある。その中で自営業に参入する女性も増えており、女性の起業率は高い水準で推移している。加えてネット人口の拡大に伴い、ネットビジネスが成長し、それに参入する女性自営業者が増えてきた。現在では、中国の女性起業についての先行研究における主な研究対象は起業規模が大きい女性企業家と私営家族企業の女性経営者である。しかし起業規模から見ると、約 7 割の女性起業者は小規模な企業に集中しており、ネットビジネスに参入する女性自営業者を含めた小規模な女性起業者についての研究蓄積が比較的少なく、彼女らが自営業に参入するきっかけや参入することによって生じる問題や、自営業に参入することは彼女らにとってなにを意味するのかについてのインタビューを通じた説明はまだ十分にされていない。そのため、本論文は中国における女性自営業者についてのインタビュー調査を通じて、家族、ジェンダー、ワークライフバランスと社会関係資本はどのように女性自営業者の自営業参入活動に影響しているのかを明らかにしてみる。

第一章では、中国では「自営業」という概念は一般的ではないため、本論文での自営業についての定義を説明する。また、女性自営業者を含めた中国全体の女性起業者の現状についてデータに基づいて説明している。そこで、中国の女性起業者の総合起業指数が高く、起業規模が小さい、起業する高学歴女性が増えていることが明らかにされている。また、実店舗や会社を経営している女性起業者とネットビジネスに参入する女性起業者の特徴を比較することによって、ネットビジネスに参入する女性起業者は実店舗や会社を経営している女性起業者より起業するための資金が低く、起業年齢が若いことが明らかにされている。

第二章では、東アジアと中国の女性自営業者に関する先行研究をレビューし、東アジアでは儒教的家父長の観念は小規模な家族事業の男性優位を助長してジェンダー不平等を生み出し

たことや、中国の女性自営業者は社会関係資本においては男性自営業者より親族的な紐帯を利用する傾向が強いことを明らかにしつつ、論点を導出した上で、以下の研究課題を示した。①中国の女性自営業者が自営業に参入する原因、②中国の女性自営業者が具体的に受ける家族支援、③家族支援はネットビジネスに参入する女性自営業者にとっても重要なのかという 3 点を明らかにすることである。

第三章ではインタビュー対象者の基本資料とライフコースを説明する。具体的には、実店舗や会社を営んでいる従来の女性自営業者 3 人とネットショップを営んでいる女性自営業者 3 人、合計 6 人を対象に半構造化インタビュー調査を行った。また、女性自営業者のワークライフバランスの現状を知るために、調査対象者はいずれも既婚で子どもを持っている。

第四章ではインタビュー結果を分析することを通じ、以下のことがわかった。①職場での仕事内容や所得が自分の能力に相応しくない場合、高学歴女性は離職しやすく、それを機に自営業に参入する傾向がある。②台湾と韓国の女性は仕事と家庭を両立するために自営業を選ぶ傾向があるが、中国においては従来の女性自営業者、特に低学歴の女性自営業者は、仕事と家庭を両立するために自営業に参入するという行動を取る可能性が低い。③大きな体制変化は人のライフコースに影響し、改革開放の影響で国営企業の倒産により失業した低学歴の女性は男性より高い収入が得られる仕事を見つけるのが難しく、より高い所得を求めため自営業に参入する女性は少なくない。④夫が自営業者の場合には、家族従業者となる女性は経営を学ぶことができ、自営業に参入、あるいは継続しやすくなる。⑤女性自営業者が「親族の紐帯」に頼る傾向は依然として存在している。しかし、ネットビジネスに参入している女性自営業者は従来の女性自営業者より比較的弱い紐帯を多く利用する傾向がある。⑥女性自営業者が起業、あるいは自営業を継続するためには、男性自営業者より犠牲を払うことが多い。⑦「家庭教育」がますます重視されるようになった中国では、従来の女性自営業者に比べ、時間的制限が少ないビジネスに参入している女性自営業者のほうが育児しやすい。

最後の第五章では要点をふり返るとともに女性自営業者に生じうる問題について考察を行った。具体的には、①女性自営業者は「親族の紐帯」という「強い紐帯」に頼る傾向が強い。しかし、事業を発展させるためには、「弱い紐帯」を利用する必要があることが示唆される。②ネットビジネスに参入する女性自営業者の多くが販売している商品は化粧品、服装など付加価値の低い一般的な商品カテゴリーに集中しているため、商品の同質化が激しくなり、競争が激しく、ネットビジネスに参入しても長く続けられないという問題が存在している。